



天文学の扉を開こう

2月の夜空

宇宙の雪だるま？ ウルティマ・トゥーレ

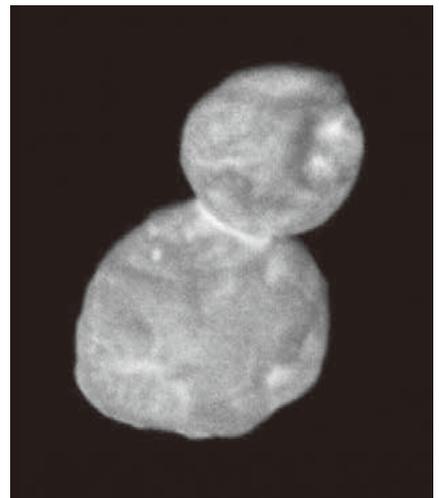
ぐんま天文台のお客様からよく受ける質問に「この大きな望遠鏡で星を見ると、どのくらい遠くの星まで見えますか？」というものがあります。この質問、簡単そうでいて、実は答えるのが結構やっかいです。もしこれが「どのくらい暗い星まで見えますか？」という質問でしたら、「150cm望遠鏡では、肉眼で見える限界の6等星より約5万倍暗い、18等星程度まで見られますよ」と答えられます。

ところが、見た目の明るさは同じでも、明るい星が遠くで光っている場合もあれば、暗い星が近くで光っている場合もあります。たとえば、3C273はクェーサーというとても明るい天体で、24億光年も離れているのに見かけの明るさは13等級です。一方、おなじみの冥王星は50億km(=1,900分の1光年)しか離れていないのに、見かけの明るさは14等級と3C273よりも暗く見えます。ですから、「どのくらい遠くの星まで見えますか？」という質問には、「星の本来の明るさも様々ですが、うんと明るい天体なら数十億光年先まで見えますよ」と答えるようにしています。

さて、冥王星のように太陽系の外縁にある天体は、弱い太陽の光を反射し、その上サイズも小さいため、なかなか観測が難しいものです。つい最近、そのような太陽系最果ての天体のニュースがありましたので、ご紹介しましょう。

2015年7月に冥王星に最接近した探査機「ニューホライズンズ」は、その後も飛行を続けて、1月2日に太陽から65億km離れた「ウルティマ・トゥーレ(世界の果てという意味)」という小天体に3,500kmまで接近しました。ウルティマ・トゥーレは、右上の写真のように直径14kmほどの球体と19kmほどの球体がつながった、雪だるまのような形をしています。実際にこのような

形の天体が観測されたのは今回が初めてで、太陽系が生まれたころに2つの小天体がゆっくりと衝突して合体したものと考えられています。



2月のぐんま天文台のイベント

・16日(土) スマホやデジカメで月を撮ろう

○星図の説明

2月15日午後9時の高山村の星空。
月初めの午後10時、月末の午後8時頃にも
同じ星空になります(「月」を除く)。





～どんどん焼き～

無病息災で過ごせますように…



戸室



小屋作り 関田



五領



※わが家のアイドル(6カ月～4歳未満)を常時募集しています。掲載を希望される保護者の方は、役場地域振興課へお電話ください。お待ちしております(*^_^*) ☎26-7944(直通)



五領 山口 真生ちゃん(3歳)

私の名前は「まき」です。

真っすぐ生きてほしいと願いを込めて、お父さんの名前からも一文字とって名付けてもらいました。

今とっても楽しいのは「ぬり絵」なの！色々な色を使ってずっと塗っているのが大好き。あと、ペンを使って文字の練習をしているの。自分の名前「まき」って書けるようになったよ。

高山村で出来た枝豆が大好きで、いっぱい食べちゃうよ。お野菜も、とってもおいしいから、沢山食べられるようになりました！

こちら「9代目緑のふるさと協力隊」

第25期緑のふるさと協力隊

川添 雄斗

高山村は想像以上に寒く、毎朝布団からいつ出るのかと格闘です。とても寒い朝にはコップの水が凍っている。「高山村はおそろしい所やな」と感じました。

1月は高山村の正月を沢山体験することが出来ました。元日には、子持山に真っ暗な中1時間ほどかけて登り、初日の出を見に行きました。とても良い天気です、神々しい初日の出を拝むことが出来ました。さらに本宿の挨拶、餅つき、新年会、上毛かるた、どんどん焼きなどにも参加させていただきました。上毛かるたでは、読まれる札1枚1枚に対する子どもたちの真剣な表情と姿勢に魅了されていました。私も聞いている中で何枚か覚えました。どんどん焼きでは、やぐら



を作るところから参加させていただきました。地元にはこのような行事がなく、初めて見ました。各地区によってやぐらの仕様が異なっていて、面白いと感じました。出来れば村全部のどんどん焼きに参加してみたいです。火を囲んで話をしながらまゆ玉を食べたり、お酒を飲むというのは時間の流れがゆっくり感じて、心もポカポカと温かくなりました。

残りの任期中に何かもの作りをしてみたいです。

緑のふるさと協力隊ブログ <http://taka-midori09.jugem.jp/>

編集後記

今期の冬は、例年に比べて雪が少なく生活するにはありますが、夏に水不足の影響がでるとまた困ることになります。日本の四季はとも大切な役割を果たしている、日々の生活を安心して暮らせるのだと思います。(2)